

1 単元名 当事者としての政治を目指して

2 単元設定の背景

教材観

小学校学習指導要領第2節社会（平成29年）の目標において、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。」とされ、〔第6学年〕2 内容（1）イ（イ）「政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。」とある。しかし、そこに当事者としての意識があるのかと言われると疑問が残る。この教材では、政策に重きを置き、子供達自身で政策を立案するとともに、実際に政策を立てている市議会議員に政策を提案したり、政策に関する意見交流を図ったりする。そうすることで、子供達にとっての「当事者としての政治」を目指すことができ、社会科の目指す目標を達成するとともに、内容の充実も図ることができる教材であると考ええる。

児童観

本学級の子供達に政治についてのイメージを聞くと、「地域の代表者が勝手に行っている」「あまり進んでいない」「政治がそもそも分からない」といった様々な意見が見られた。政治に関するアンケートでは「国や地方の政治についてどの程度関心を持っていますか？」の質問に肯定的な回答が58.6%、否定的な回答が37.9%、分からないが3.4%であり、「現在の政治に対してどの程度満足していますか？」では、肯定的な回答が48.3%、否定的な回答が34.5%、分からないが17.2%であった。また、「政治に関する情報を主に何から得ていますか？」の質問に、テレビ72.4%、新聞10.3%、インターネット3.4%と、多くの子供がマスメディアを通して政治に関する情報に触れていることが分かった。実際に政治に関わる人との交流がある子供は6.2%（2人）であった。

集団観

お互いの良さや違いを理解し、それを認め合うことによって共に高め合おうとする学級集団を育てる。本学級は主体的に学ぶことのできる子供がいる一方で、課題を他者から与えられないと学習を始められない子供もいる。その原因として自分の意見・考えへの自信の無さだと考える。今回の子供自身で政策を立案する学習の中で、政策案に対する各種資料の調査や自分の思いを込めることで、その後の市議会議員に提案したり、意見交流したりする活動において、自信をもって自分の意見・考えを表現できる集団を育成する。

指導観

指導にあたり3点に留意する。1点目が「子供目線での政策の具体化」。本単元では、「自分自身や自分を取り巻く身近な人々の日常生活の困り感」という視点で政策の立案を図る。政策を自分自身からスタートし、子供目線での政策の具体化を図ることによって、当事者性の向上を目指す。2点目が「政治への心理的距離を近づけること」。政治への心理的距離を近づけるためには、市議会議員と子供の身体的な距離を近づける必要があると考える。そのため、数名の市議会議員を招聘し小グループで政策の提案や意見交流ができるような環境設定を行う。3点目が「事後のつながりの意識」。本単元で学んだ政策を立案する経験を、11月の自伸会選挙において、5年生が立候補者として公約を立てる際に助言するなど活用を図る。

3 単元の目標及び計画（全8時間）

■単元の目標

子供達自身で政策を立案し、市議会議員への提案や意見交流を通して、政治に関わろうとする姿勢が自分を取り巻く生活の安定と向上につながっていることを理解することができるようにする。

■単元の計画

第1次 自分自身や自分を取り巻く身近な人々の日常生活の困り感から、政策を立案しよう。・・・4時間

第2次 市議会議員の方との意見交流会をしよう。

（自分の考えた政策の発表・意見交流）・・・・・・・2時間（本時）

第3次 政策を立案する時のポイントをまとめよう。・・・・・・・2時間

4 単元の評価規準

保育・教科部 社会①

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
政策の立案に向けて地域の現状を分析したり、各種資料を読み取ったりすることを通して、政治に関わろうとする姿勢が自分を取り巻く生活の安定と向上につながることを理解している。	政策の立案に着目する中で、政策を立案する上で必要な情報とは何かについて考え、情報を基にどのような政策が必要なのかを適切に表現している。	政策の立案を構成するために、必要な情報を獲得したり、よりよい政策を試行錯誤したりするなど、主体的に問題の解決を図ろうとしている。

5 本時の学習

■目標 ①市議会議員の方との出会いを通して政治に対する自身のイメージの変化や深まりを自覚することができる。

②自分自身や自分を取り巻く身近な人々の日常生活の困り感に対する政策を提案し、意見交流を図ることを通して、政策を立案する難しさや必要な視点を獲得することができる。

■「受容と共感を促す手立て」

子供の受容と共感を促すために、市議会議員との交流の場面で子供と市議会議員との物理的・精神的な距離を縮めるために、市議会議員を複数名招聘することにより、市議会議員の話を聞いたり、小グループでの政策提案、意見交流を行ったりする。

(1/2時)

■学習過程 ※(全)(小)(個):学習形態(全:全体の場合 小:小集団 個:個人)㊟:留意点 ㊿:評価の観点(方法)

学習事項	児童・生徒の活動	教師の働きかけとねらい	集団
1. 学習課題への接近	(1) 市議会議員と出会う。	(1) 市議会議員本人と子供達の出会いの場면을温かな雰囲気できるようにコーディネートする。	(全) 全体で市議会議員との精神的な距離を縮める。
2. 学習課題の設定	(2) 子供達の考える政治に対するイメージを確認し、本時の学習課題を設定する。 議員さんの話を聞いて、自分の考える政治のイメージを確かめよう。	(2) 子供達がすでに持っている政治のイメージを確認し、それぞれの市議会議員の話を聞いて確かめる時間にするを全体で共有する。	(全) 学習課題を学習集団全員で解決しようとする意欲を高める。
3. 学習課題の追求 (個による考察)	(3) 議員の自己紹介と政治に対する思いなどを聴くとともに、自分自身の政治に対するイメージと比較する。	(3) 市議会議員との事前に打ち合わせをもとにしながら、子供達の政治に対するイメージをゆさぶるような、自己紹介、政治に対する思いなどを子供達に伝えてもらう。 ・1人8分程度(4人32分) ㊟子供達の政治に対するイメージの変化が生まれているのかに着目しながら、子供達の様子を見取り、個別、全体への声掛けを図る。	(個) 自分自身の政治に対するイメージと比較しながら聴く。
(グループによる考察)	(4) 政治に対するイメージの変化があったか、無かったかをグループで共有する。 ・議員さんの話を聞いていると、	(4) 小グループに分かれてイメージの変化があったか、無かったかをもとにしながら、それぞれの政治に対する思いを伝えさ	(小) 小グループで政治に対するイメージの変化があったか、無か

	みんなの困り事の解決のために働かれているんだなと思った。 ・みんなの代表者が議員さんだから、みんなの意見を聴いたり、探したりしているんだなと思った。 ・政治は自分とは程遠いものだと感じていたが、もしかすると身近な物なのかもしれないと感じた。	せる。	ったかを共有する。
(全体による考察)	(5) 小グループで話し合ったことを全体で共有する。	(5) どんな意見が出たのかを発表させ、意見の共有を図る。	(全) どんな意見が出たのかを全体で共有する。
4. 本時のまとめと次時への発展	(6) 本時の振り返りを行う。 ・今日は市議会議員の方と話をすることによって、これまで身近ではなかった政治の世界が少し身近に感じられるようになった。 ・政治とは関係のない自分達だと思っていたが、今からできることもあるのかもしれないと思うようになった。	(6) 本時の学習課題を再度提示し、個人で課題に対する振り返りをフォームに入力させる。 ㊦自身の政治のイメージがどのように変化したか、深まったかを考えられている。(フォーム)	(全) → (個) 学習課題に対しての自分の考えを、小グループや全体での話を参考にまとめる。

(2/2時)

■学習過程 ※ (全) (小) (個) : 学習形態 (全 : 全体の場 小 : 小集団 個 : 個人) ㊦ : 留意点 ㊧ : 評価の観点 (方法)

学習事項	児童・生徒の活動	教師の働きかけとねらい	集団
1. 学習課題への接近	(1) 前時の振り返りを行うとともに、第一次の活動(自分自身や自分を取り巻く身近な人々の日常生活の困り感から、政策を立案しよう)を想起する。	(1) 前時の政治のイメージの変化や深まりとともに、子供達がこれまで行ってきた政策立案の活動を想起させる。	(全) これまでの活動の流れを確認する。
2. 学習課題の設定	(2) 本時の学習課題を確認する。 政策を提案するとともに、政策を立てる際の疑問を解決しよう。	(2) 自身の考えた政策を提案するとともに、政策立案の際に子供達から出てきた疑問を収集しておき、解決を図ることを確認する。	(全) 学習課題を学習集団全員で解決しようとする意欲を高める。
3. 学習課題の追求 (個による考察)	(3) これまで自分達で政策を考えていた際に、どんな視点で政策を考えようとしてきたかを確認する。 ・地域の声を聴くことが大事 ・データを活用することも必要 ・予算がどのくらいかかるのかを予想しなくてはいけない。	(3) 子供達自身によって、政策を考える際に視点としていたことを事前にまとめておき、必要な場合は補足する。	(全) 政策を考える際の既有知識について全体で確認し、本時終末部での知識の変化に気付けるようにする。
(グループによる考察)	(4) 各グループに分かれて、政策の提案を行う。 〈自分自身の困り感〉 ・学校のルールについて…	(4) それぞれのグループに分かれてスライドにまとめたものを市議会議員に提案する。(スライドは自分の政策の売りをは	(小) 小グループでの提案を通じて、どのような政策を友達が考え

(グループによる考察)	・公共交通機関の使い方について ・前校庭の使い方について… ・地域の公園について… ・自分の将来の夢に関わって… 〈自分を取り巻く人々の困り感〉 ・おばあちゃんが買い物に行きにくいから… ・広島県に遊園地がないから… ・三原をより有名にするために… (5) 自分たちの提案した政策に対する市議会議員の話を聴き、政策を立案する上での必要な視点を見つける。 ・これまでは、ただ地域の声を聴けばいいと思っていたが、困っている人がいないか、不満を持っている人がいないかを自分から探す視点が必要だと気づいた。 ・データを見て分析する際は、様々な視点をもつことで、見えなかったものも見えるようになるのではないかと感じた。 (6) 政策を考える際に出てきた質問や疑問を市議会議員の方に聞く。 ・自分の考えた政策は本当に実現できますか？ ・どのくらいの情報を集めて、政策を考えるのですか？ ・一つの政策を考える時に、どのくらいの時間をかけて作っているのですか？	つきり伝えられるように、定型化されたスライドも用意し、準備を行う。) (5) 市議会議員として子供達の政策に対する評価をしていただく。 ㊟評価をしていただく際には、政策立案のプロとして、子供達の考えた政策の不足点（視点や裏付けとなる資料など）をもとに話していただけるようにする。 (6) 子供達が政策を考えながら見つけた質問や疑問を事前にまとめておくとともに、自由に市議会議員と話の出来る時間を設ける。	ているのかを共有する。 (小・個) 政策提案に対する評価をもらい、政策の良い所、改善した方がよい所を明らかにする。
4. 本時のまとめと次時への発展	(7) 本時の振り返りを行う。 ・市議会議員の方にアドバイスをもらえて、政策をもう一度考えたと思った。 ・政策を作る上で、市議会議員の方が気を付けられていることが分かった。	(7) 本時の学習課題を再度提示し、個人で課題に対する振り返りを考えさせる。 ㊟次時に全員の振り返りを全体で共有し、自身の政策を再度見直すことを伝える。 ㊟政策立案に向けての新たな視点を見つけられている。(発言・フォーム)	(全) → (個) 学習課題に対しての自分の考えを、小グループや全体での話し合いを参考にまとめる。